

平成29年度 第1回 堺市障害者自立支援協議会

議事概要

日時	平成29年5月19日(金)	午後1時30分~4時
場所	堺市役所 本館 地下1階	多目的室
出席者 (敬称略)	三田、増田(基)、高田、藤原、林、柏木、増田(茂)、松林、古賀、所、長尾、 眞鍋、羽野、柴田、河盛、石戸、桐山、永井、福田、吉川、丸野、白石、北村、 武井、高尾、御田、福井、屋良、上田、永吉	
代理出席	羽野【代理:佐野】、今津【代理:花家】	
欠席者	澤	
事務局(障害施策推進課)	足立、杉本、木田	(障害者支援課) 岸
事務局補助(総合相談情報センター)	桜井、小出	
傍聴	1名	

1. 協議会全般について

I 委員の自己紹介

- ・今年度から変更となった委員がいるため、全委員の自己紹介。

II 協議会の体制について

- ・説明は資料1のとおり。

2. 区協議会及び部会等の活動報告、本年度の取り組みについて

I 区協議会

【堺区】・今年度は防災について進めている。防災ワーキングチームの提言に沿った形で進めたい。

- ・上半期は、区協議会委員が勉強するところから始める。
- ・下半期は、民生委員や相談支援専門員の意見を集めたい。
- ・指定相談事業所連絡会、通所事業所連絡会と連動しながら、今年度も進めていきたい。

【中区】・説明は、資料とおり。

【東区】・今年度は地域課題と事例検討を中心に行う予定。

- ・地域課題を個別にあげて整理し、共通の部分を解決するための方法案まで考えていきたい。
- ・防災は引き続き、作業所と連携を密にしていく。
- ・高齢者、関係機関との交流会も行う予定。

【西区】・昨年度、好評だった高齢支援者会議との合同研修会を引き続き行う。

- ・毎年行っている、民生委員(障害福祉委員会)との研修会をする。
- ・ヘルパー交流会についても、今年度2回開催予定。
- ・昨年度、成果物として、リーフレットを改定しました。このリーフレットは、民生委員長会議、福祉委員長会議で説明し、各校区に配布し

ている。

- ・今年度、放課後等デイサービスと西堺消防署とのイベントを、9月9日（救急の日）にアリオ鳳で開催する。リーフレットも配布したい。

【南区】・今年度は、個別支援から課題を抽出し、情報整理と必要な人に情報の周知に取り組む。

- ・H26に作成した「ライフステージ別相談機関のご案内」パンフレットと、「65歳の介護保険への移行」のチラシを関係機関に配っているが、そのチラシがその後どのように活用されているか、役に立っているか、見直しの有無について検証していきたい。
- ・昨年度もヘルパー事業所を対象に、精神障害がある方に対する支援の入り方という勉強会を行ったが、今年もヘルパー支援がある中での指定相談支援事業所の相談支援の役割確認など支援者のスキルアップ研修も考えている。

【北区】・新しい事業所も増えており、本来の協議会の仕組みである個別支援会議から課題集約という流れが進められていない現状。上半期で事業所と指定相談支援事業所連絡会の交流という形で、まずは事業所の事を知ってもらって、その後で相談支援の共通認識づくりというものを、区域でできる範囲で作っていきたい。後半は事例検討を予定。

【美原区】・体制図と年間予定を出している（資料とおり）

協議会の構成メンバーは、様々な得意分野のある関係機関なので、もう少し特化した内容で深めることができればという事でこの体制を考えた。

- ・今まで取り組んでいた内容をプロジェクトとして、美原区は指定相談支援事業所数が少ないが、相談支援機関、色んな機能を持った関係機関があるので、スキルアップしていこうという事で、プロジェクト機能を立ち上げた。

[地域移行定着ができる美原]

- ・構成メンバーの中に美原病院（精神科病院）の方が来られたり、保健センターなどが構成員であること、基幹Cが地域移行のコーディネーターであったり、美原区の地域に地域移行して生活して定着できるような取り組みはできないだろうかという事で今年度立ち上げた。
- ・まずはネットワーク作りや情報交換からスタートする。
美原区内の関係機関を中心として、定例会で各部会の報告。各プロジェクトは全員が動くのではなく、その都度、柔軟に対応したい。

【意見交換】

【委員】

- ・中区の報告に、指定相談支援事業所交流会で、就労継続支援事業所（A型）

「以下、就A」見学ツアーを予定されているが、企画に至った経緯を教えてください。

【中区】

- ・就Aを利用されている方のケースで、色んな相談があり、「どのように対応すれば良いか悩んでいる」と指定相談支援の方から意見が挙がっていた。まず、就Aの取り組みを勉強し、繋がりを持つために就Aの見学ツアーを企画し、来月実施の予定。7月の報告会で、情報共有し次を考えたい。

【委員】

- ・就A数が増加してきて、「利用したい」という利用者も増加してきている。今後も良い支援が地域で発展してほしいと思いながら、就労ワーキングチームで議論を進めているが、一方で人数を集めることが目的になっている事業所があるような話もあって、実態が見えないという意見があるので、情報共有やネットワークづくりは必要だと話している。

【委員】

- ・就Aは、障害福祉サービス事業であり、一般企業等での就労が困難な方が雇用契約に基づいて就労する。
就Aのスタッフは、サービス管理責任者を除いて、障害の特性を熟知されていない方がほとんどで、ノウハウがないまま対応しているのが現状。

【委員】

- ・働いている人の相談が色々あり、事業所内での対応が余りできていないことが問題で、相談支援機関に情報が入ってくる時には、問題が大きくなっているのが現状ということですか？

【委員】

- ・僕は就労継続支援B型（以下、就B）に通っていますが、就Bでいけるなら就Aへ、就Aがいけるなら、就労移行支援事業所へと言われる。「就労」の部分も大事だが、本人の自発性も大事。ピアサポーターを活用して、どの事業所も病気の部分をしっかり見ないといけない。
就労ばかりだと利用者も疲弊してしまって、最終的に潰れてしまう。

【委員】

- ・就労関係の色んな問題が増えている。就Aが増えているのは、社会資源が増えていて喜ばしい事ですが、色んな課題があるというのは、約2年前からその状況は掴んでいて、先に大阪市で問題が起きていた。大阪市が飽和状態になり、堺市も段々と増えてきた。行政的には、指定する際に要件を満たしていれば指定できますし、運営の中でもルールを守っていれば運営ができ、なかなか指導ができない状況であった。

しかし、この4月に国から運用見直しについて通知があり、「生産活動に係る事業収入から必要経費を引いた金額を賃金の総額以上とし、その分を賃金にあてなさい」となったので、運営が困難になる就Aが出てくる可能性がある。そうなる、それまで利用していた方の行き場について、新しい問題が発生するのではないかと。その辺の状況も踏まえて、皆さんと議論をさせて頂く必要があるのではないかと考えている。

II 障害当事者部会

【副部長】

- ・説明は、資料3-1のとおり。

【意見交換】

【委員】

- ・実現不可能なアイデアって何ですか？

【委員】

- ・予算の掛かるようなものは結構削られた。
- ・ビックアイに泊る事とか、泊って食事をどうするかとか、介護者の手配とか。そうなる、ボランティアが入らないとダメだし、ヘルパーが無理なのでという話をした。

【委員】

- ・ヘルパーについての質問をさせてください。ヘルパーの質は上がっているが、人材不足が問題であると。例えば、会議の中で「ヘルパーの質が上がったよ」など何か意見とか出来事があったら、どんな事を言ったのか教えてください。

【委員】

- ・昨年度2月の自立支援協議会で当事者交流会の報告をされていたので、色々な意見はまとめられているので、それを読んでもらえたら。
- ・慣れたヘルパーだと一緒にいて楽しいという意見が出ていたように記憶しています。

【委員】

- ・障害の方はいいけど、介護保険の方で使いにくいという意見が出ている。

【委員】

- ・障害の事をもっと分かってくれたらいいなとか。

【委員】

- ・介護保険になると、支援量が減ってしまうから、もう少し使いやすくして

ほしいなどの意見がありました。

【委員】

- ・質問というかお願いなのですが、堺区は説明した通り、今年度は防災のテーマで話し合っていく。当事者交流会で当事者部会の方々も防災については地域の民生委員とか、近隣の人たちと繋がっていかないと、いざ震災が起きたときに不安だなといった声を書いてありますので、差し支えなければ是非ご協力というか、当事者部会に依頼させて頂いても大丈夫ですか？

【委員】

- ・どんどん来てください。

Ⅲ ワーキングチーム

【就労ワーキングチーム】

- ・堺市の就労移行事業所連絡会から代表で参加している。就職者数は、増加傾向だが、就労移行だけで見ても利用する方が多様化している。
- ・就Aが増加し、ハローワークも一般企業への就職希望が減って、なかなか見つからないという逆転現象が起こっている状況もある。
- ・まずは色んな社会資源、支援機関の方々と交流しながら、どんな現状なのかを知るために、色んな事業所とテーマを持って、話し合いの場を持ってきた。
- ・資料4-1のとおり。

【防災ワーキングチーム】

- ・防災については、皆の関心が高いところである。
- ・昨年度は、課題整理と展望が見えた。障害特性に応じた対応と時系列に応じた対策など。地域の中で、普段から自分たちも一緒にいるんだということ。防災は皆を繋ぐきっかけになるのではないか。
- ・資料4-2のとおり

【相談支援ワーキングチーム】

- ・今年度6月からワーキングを開始する。課題整理をして取組んでいく。
- ・メンバーとしては、区協議会、相談支援専門員協会、行政と少人数から始めたい。当面は人材育成がテーマとなるだろう。

【委員】

- ・相談支援の充実は大きな課題。地域生活を支える一つとして計画相談支援がある。計画作成数は増加しているが、まだ50%であり、事業所は100か所前後あるが、聞くたびに休止している。人を育てるのは大事であり、どうやって増やしていくのかも議論してもらえればと思う。

【委員】

- ・政令指定都市は全国的にも計画相談は進んでいない。事業所を増やす取組みの意見交換をしているが、どこも難しい。抜本的な報酬改定については厚労省に要望を挙げている。しかし、急激に増加させるのは難しい。できるところから取組みができればと考えている。

事務局

- ① ホームページの運営状況…説明は資料5のとおり。
- ② 後援名義の許可状況…今年度は今のところ無い。資料6は昨年度分。
- ③ 視察等の対応状況…今年度は今のところ無い。資料7は昨年度分。

3. 市協議会の本年度の取組みについて

本年度の取組み

【委員】

- ・ここでは、皆さんに提案があります。先ほど報告がありましたが、自立支援協議会は10年活動してきました。色んな取組みが10年続いたのは凄いことだと思いますが、一度振り返って、仕切り直して、また何か新たな事が出来ないかなと思っています。

【会長】

- ・10年前、市民向けの啓発のための講演会と劇をやらせていただいて、大変な反響がありました。地域の人たちに私たちの事を理解してもらうために、市民向けの発信をずっと続けていきたいと思っています、その一つの材料として、こういうものをやってみたらどうかと考えております。

【平成21年度フォーラムでの寸劇の様子をプロジェクターに投影】

【委員】

- ・例えば、権利擁護の方でも、弁護士や司法書士が劇団を組んで、市民に分かりやすく伝えるために行っている。印象に残る方法が色々あると思うし、劇はその一つかなと思っている。あくまで劇は一つの例で、必ず劇をするという意味ではないです。

【委員】

- ・ストーリーの内容も良かったし、分かりやすかったし、見える化されたというのが一般の方に印象に残ったものだと思う。そういう意味での表現の仕方も、これだけでは無いと思うが、訴えられるようなものがあれば、またフォーラムをやられるのであれば協力したいと思います。

【委員】

- ・当時、経験したが、市民の方にいかに伝えるのかというのは、かなり難しい。勉強になりました。

【委員】

- ・これは一つの例で、またフォーラムを計画したいと思う。ご了承頂いてよろしいでしょうか。またご協力を頂ければと思っております。

4. その他（情報交換等）

【情報提供】…各委員から情報提供。説明は資料のとおり。

- ・障害児支援の受付機関及び決定機関の変更について（子ども家庭課）資料8
- ・高齢所管課の組織改編について（長寿支援課）資料9
- ・地域包括ケア・地域共生社会について（長寿支援課）資料10
- ・性暴力被害相談について（こころの健康センター）資料11
- ・相談支援サポート事業「新任相談支援専門員のための勉強会」案内（障害施策推進課）資料12
- ・ヘルプカード、ヘルプマークについて（障害施策推進課）
- ・障害年金についての冊子（総合相談情報センター）

【事務局から】

- ・今年度は、堺市が「第5期堺市障害福祉計画」を作成する。自立支援協議会の意見を聞く場を設ける予定。この計画は3年度ごと作成しており、前回は地域生活支援部会で対応していた。今年度は休会のため、別の場を設ける予定。まだ検討段階なので、構成員などは決まっていない。時期は11～12月頃の予定で、個別に依頼させていただきたいと思っている。ご協力をお願いします。